

磐城時報

日刊 十月五日
編輯者 石城郡平町 弘成
印刷者 石城郡平町 弘成
發行所 石城郡平町 弘成
電話 一四七五
代金 一月一元 三月三元 半年五元 一年十元
廣告料 一行十文字 一月一元 三月三元 半年五元 一年十元
日刊(日曜) 休刊

石城郡各銀行の預金利息が激減

昨年比其前年に比して各種とも五割方減す

平税務署調査の石城郡内各銀行管内の本店銀行にして休業或はの昨年一ヶ年中に銀行預金利息貸出しその他業務休止状態であるとして一般預金者に拂戻した金つた結果と一面経済界の不況に額は定期預金利息二十三四百円倍各種事業の縮小或は漁村に五十七圓、前年に比し五割六分おける産出物何れも價格低廉に四厘の減を示し特別當座預金利息で財政上の余裕を見ず従つて子五萬七千八百廿三圓、通知預金等なく銀行を利用するもの金利子七百廿九圓、當座預金利息に至つたに由るもので郡内子三萬五千八百四圓、その他利の金融が如何に硬塞であるかを子二千一百十五圓にして何れも深刻に物語るものであらう。

拾つて届出でたのは遺失の四分の一

平署の遺失物調べ

平署は種々な事件が多いので全八十九件であるが金額にすれば縣下に知られてゐるが、事件と一千二百七十九圓八十三錢にしは何等關係のない遺失物を見てか當つてゐない、この遺失と拾も他署を依頼してゐる。昨年中得とを合せると累計五千七百餘に於て同署で取扱つた遺失物の圓になるのであるが、遺失者に成績を見るに、遺失の届出をなす附したものは五百八十五圓八に拾つて届出でたの四百五十三圓、拾得者に還附した貨に見積ると四千五百三十二圓ものが一千六百九十九圓五厘、京市麻布區三軒町長田アキ(四署では直ちに警視廳に對し調査方を打電した。

溜池新設計劃

石城郡飯野村大字上荒川地内が腹痛を覺え高久病院の手當をう入山炭礦採炭の結果水がなくなつたが同夜十一時死亡した。

巧みな捨子と自首

列車の中で子供を預けられ 途方に暮れて平署に届出づ

石城郡小名濱町字竹町漁夫佐藤正次郎妻アキ(四一)であるが、日茨城縣深田町に赴くため常磐線泉驛發午九時の上り列車に乗る大壘附近に來た際向ひあつて座してゐた四十歳前後の婦人が一寸使所に行つて來るからこの子供を抱いてゐてもらひ度と生後六ヶ月位の女児を托して行つたまゝ再び姿を見せず

明友藥劑士總會

會長は山野邊東次郎氏

本縣下在任の明治藥學校及び明友藥劑士會より出た來りすからす慮し留置治藥學專門學校出身藥劑師より場から總務代を引出し更に嚴重なる明友藥劑士會福島支部設立なる取調をなしたが總務代は幾成るは十四日午後一時から平町分低部と云へ連子殺しの事實谷口樓に開き石城郡の外、若松を頭としてひるがへさないの二本松、須賀川等より出席者三小署ではほと／＼困却し五里霧十八名、東京方面よりは恩田明中になつてゐる。

原町通信

小柳知事の各地講演

小柳知事は過般來より各町村の公私經濟緊縮講演會に出席して來る十六日は浪江町に十七日は午前中原町に、午後は中村町の講演に臨み豫定なり。

農業教育研究會

馬郡第六回農業教育研究會は來る十七、八兩日に亘り縣立相馬農藝學校に於て開催し農業經濟に關する會員相互並に農業教育に關する教育發表あり第二日(十八日)には日本青年新聞記者千葉縣農家高橋豊次郎氏の稲作増收の實際と多角形農業の經營の講義あり等なり。

迷宮に入る

平署待合室附近で去る八日午後七時頃舉動不審のかぎで平署に連行取調の結果生活に困り亡妻の連子武夫(五ツ)を絞殺し隅田川上流に投棄したと意外な犯罪を自白した河沼郡群岡村字下尻長谷川龜喜代(三〇)にかゝる怪殺人事件に關して平署ではその後連日關係各地に照會を發し事件の調査を進めて居れど全然手がかり無いことは既報の通りであるが平署では事件の性質上

太田收入役就任

馬郡太田村前收入役門馬市治は既報の如く公金横領に依り目下入獄中にて其後欠員の處今岡田彦治郎氏村長に就任すると同時に收入役の後任物色中の處十日の村會に於て村會議員木幡吉治郎氏推薦されたるを以て同氏に交渉し承諾を得て直ちに就任した。

寒行の意義

白衣 生

佛教の托鉢行願はその人自身の信仰の念願によつて行乞するものであつて必ずしも法人的に認められた寺院の寒行が正しく個人的の寒行が不正といふことは言はれない、たゞ法人的に認められた堂々たる寺院の寒行であつても、其の修業者の念願の内容が不正であるならば、その寒行は無意味であらねばならぬ、よし個人的でもその人自身の願行が正しくあるならばそれは尊い佛作佛の生活である故にそれが婆さんであらうと、子供であらうと、そんな形式によつて善行を左右すべきものではない。

なほ又一步を譲つてこれが乞食であつても、この零下十二度の寒行にあつて、物乞ふ人ありとするならば、その努力に對して一握りの米なり又は一厘の金錢なり恵み與ふこそ佛陀の慈悲である、よし與ふべき何物もないならば、氣の毒であるといふ心持でもよいその人のために與へてやるがよい、古歌に「門に立ち物乞ふ人の聲きかば、憐れと思へよし施さずとも」といふ歌がある、これが佛の慈悲である、また現代の人類の根本義ではあるまいか。

自分獨りが施さぬのみならず他人までも語らうて乞食退治呼ばわりをなさるのはいさぐさ動物の皮をかぶつた人間のやるべきことで、決して止しき人類のやるべきことでない。一厘を乞食に惜む人間が往々にして花柳の巷に向つて千金を投じて尙ほかつ平氣で居るのである、今日の社會問題は貴下のやうな分子が存在するから起るのである。

賀狀片々

(一) あきら生
それから高瀬勝男氏は中央に「皇紀貳千五百九〇年元旦」として祝意を表し、太陽は天をかたどり左方下部に横線をひいて地にかたどり、氏名を以て人にかたどつてゐる。

田村郡夏井村
吉成 劍突坊

年賀状またかいてやる四十八海邊の巖に苦のむす國歌
生命の期限に氣付く屠蘇であ
介抱をされるまで飲め屠蘇さげん

東京 新島 新平

下町の初荷の朝へ狩り出され
更生のわれに忙しき午の春句も歌もなく三日経ちたり

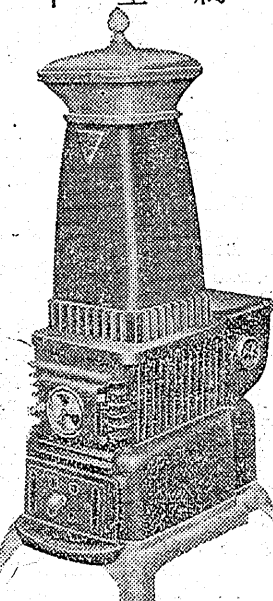
好間 齋藤 雅山
袴はく兒等に鳴き居り初雀
好間 吉田 青柳子
初風や巖をめぐる潮の渦
綿引 東天紅
巖頭にボンカッ上る旭を拜み

眞も偽も同慶とある年賀狀
爺と婆やはり嬉しい年をどり
新年の附録へ餉粉つけられる
常よりか女忙しい三ヶ日
解禁の春もおんなじ財布なり
旅にゐる妻にもあてる年賀狀

圖更け行く夜 ○○生
今日も又暮れだじまつたのだ
大空には何處と敷の知れぬ
星が下界を照してゐる
そして時折木枯がビュウク
と私の顔を吹き過ぎて行つた
我は思はずと縮めた
其の頃按摩 笛の音は物淋しく
吹き乍ら 前の前を通り過ぎ
た。其の敷芬間の後
お城山の鐘は邊の静けさを破
つてゴーンと鳴り響いた。

平町田町(電話五二三番)
高久病院
醫學士 高久 忠
新潟醫學士 赤羽 清雄
藥劑士 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

暖爐界之征服者
ネンシヨウストーブ
經濟的連續完全燃燒
消費節約
火防衛生
優美堅牢
簡便を欲せらる、御方は是非御試し下さい
御請求次第カタロク進呈



久 釜屋商店
電話九番・一三九番

スポンジ
美味しくて 強壯の効 著大
血を 肉を 肥やす
定額 三價 二價 一價
ツボツボ 三價 二價 一價
山野町 五丁目 角 藥局



咳止の 妙藥
オピール錠
藥學博士 丹波坂三先生製藥指導
醫學博士 豊島豊次郎先生動物試驗
特約店 平町一丁目(電話四六二番) 大平屋藥店

耳鼻咽喉科專
新築場所 合津醫院
平町仲田町七一
電話五五九番

液体空氣會社製 酸素含有量九(五分中)
吸入用酸素酸素吸入器
正確体温器寒暖計
特約店 警城平町 開内藥局 電話四〇番

◆當店特製の生地裁縫共に用分ない品です
學生外套特賣
なかや洋服店 平二電203

ニッポンレコード新荷着
戀慕小唄 (松竹映畫)

回此外種々流行新譜が取揃ひました、御正月の御樂みに是非御買上を... 蓄音器の修繕は安く早く
電話一九三
大谷時計病院

開業御披露
驛前新道通り角へ新時代の洋食屋が新築開店致しました洋食は一品金二十錢より調理します。定食御一人前金一圓にて八品付けます... 其外に御一人前料理四品御酒一本付金一圓で御勤め致します。
出前は新しい器具で早く特に勉強致し升洋式宴會場と静かな日本間が有ります。末永く御顧負を御願申上ります。
コック見習 中 募集 **金** 春
電話六六六番

舊年謝興行
三大名畫
瀧花 久子
まごころ
大河内 傳次郎
沓掛 時次郎
栗島 すみ子
浮世 小路
平 館
終 十 金
中席 末通 終普

靴とカバン
福山に限る
平町役場前 **福山靴店**